

▼アクラシノン注射用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 アクラルピシン塩酸塩 aclarubicin hydrochloride 【分類】 抗悪性腫瘍剤 [アンスラサイクリン系]

【単位】 ▼20mg/V

【常用量】 ■固形癌及び悪性リンパ腫：(1) 40～50mg/日 [0.8～1.0mg/kg] を1週間に2回、1, 2日連日または1, 4日に投与静脈内へワンショット投与または点滴投与。(2) 20mg/日 [0.4mg/kg] を「7日間連日投与後、7日間休薬」を反復■急性白血病：20mg/日 [0.4mg/kg] を10～15日間連日

【用法】 ■静注または点滴静注■生食または5%ブドウ糖液 10mL で溶解 [溶解時の pH は7未満にする]

【透析患者への投与方法】

【保存期 CKD 患者への投与方法】 腎障害患者には慎重投与 [副作用が強くあらわれるおそれ] (1)

【特徴】 アンスラサイクリン系抗悪性腫瘍剤。Topo II を阻害。RNA 合成阻害作用が比較的強いという。蓄積性心毒性に注意。

【主な副作用・毒性】 心筋障害、骨髄抑制、食欲不振、悪心、嘔吐、全身倦怠感、脱毛、不整脈、肝機能障害、血尿、膀胱炎、頭痛、肺炎、発熱、静脈炎など

【安全性に関する情報】 腹腔内投与時の DLT は chemical peritonitis (Kerr IG, et al: Invest New Drugs 5: 171-6, 1987) 血管外漏出により炎症 (1)

【代謝】 グリコシド型およびアグリコン型に代謝される。CYP が関与している分子種は不明 (1) グリコシド型には活性がある (1)

【排泄】 尿中回収率 0.2～5.6% [iv, 24hr まで] (1)

【CL】 $150.47 \pm 49.38 \text{ L/hr/m}^2$ (1)

【ke】 α 相： $8.4886 \pm 2.5746 \text{ hr}$, β 相： $0.1008 \pm 0.0608 \text{ hr}$ (1)

【蛋白結合率】 Alb に 75.8%, AAG に 37.4% (1)

【Vd】 $2072.5 \pm 492.9 \text{ L/m}^2$ (1) 急速に組織分布し、その後血中には代謝物として認められる (Egorin MJ, et al: Cancer Chemother Pharmacol 8: 41-6, 1982)

【MW】 848.33

【透析性】 資料なし (1)

【O/W 係数】 油相に分配 [pH7.0] (1) 【薬物動態】 臓器移行性が高く、正確な治療上有効な血中濃度は不明 (1) 代謝物の血中濃度は比較的持続する (1)

【相互作用】 心毒性、骨髄抑制の相加に注意 (1)

【更新日】 20170123

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。